

令和4年度 第1回八王子市多文化共生推進評議会 議事要点録

開催方法	オンライン会議による開催（オンラインでの出席ができない評議員は書面参加）
開催日	令和4年（2022年）6月3日（金） 午後6時00分～7時30分
出席者	森茂座長、遠藤評議員、大塚評議員、奥野評議員、小峰評議員、柴山評議員、鈴木評議員（書面参加）、ドミー評議員、花輪評議員、松本評議員
配布資料	評議会次第 資料1 八王子市多文化共生推進評議会開催要綱 資料2 八王子市多文化共生推進評議会評議員名簿 資料3 八王子市の外国人の状況 資料4 八王子市の取り組みについて 資料5 第2期多文化共生推進プランの基本的な考え方について 資料6 令和3年度市政モニターアンケート結果 資料7 令和3年度外国人市民アンケート調査報告書 参考資料（総務省）「地域における多文化共生推進プラン」改訂のポイント

1. 八王子市の外国人の状況について

- ・八王子市は外国人留学生が多いが、現在の留学生の状況は。コロナの影響も相当あったと思うが。

【事務局の回答】

国の入国の制限が緩和され、この4月で留学生が増えた。引き続き増加が見込まれる。

- ・日本語学校では、去年、一昨年と、入国規制で、なかなか留学生が入国できない状態が続いていたが、今度の制限緩和を受け、待機していた6～7割が4月から入国できている。今後も残りの待機している学生、新規の学生の入国が続く予定。

2. 八王子市の取り組みについて

意見、コメントなし

3. 第2期多文化共生推進プランの基本的な考え方について

- ・地域社会で住民の交流を企画するにあたり、町会・自治会との連携が大切だと実感している。

【事務局の回答】

町会・自治会の加入率は、外国人に限らず、全体的に下がっている。外国人の住民に、町会・自治会に入ってもらふことは、地域の中で多文化共生を進めるきっかけの一つになると思う。

- ・外国籍の子どもたちは、学校で地域の子どもたちと交流がある一方、その親は地域との関わりがとても少ない。何年も日本に住んでいるのに、地域に友達や、困ったときに頼れる人がいないという話をよく聞く。そうになると、支援ができる数少ない人にニーズが集まってしまい、結果的にその人がパンクしてしまう。地域と外国人とをつなぐ場面や人がもっと必要なのではないかと。例えば、PTAなどが考えられるかもしれない。最近は町会・自治会に入る人も減り、メンバーの年齢にも偏りがある。町会・自治会とつながるだけでは、外国人住民の利益になるかは疑問。町会・自治会とは違う可能性も探る必要もあるのではないかと。

今回の外国人アンケートの結果を見ると、地域活動に参加したい外国人は多い。そこにヒントがあるかもしれない。

- ・八王子国際協会では「日本語を母語としない親子のための多言語高校進学ガイダンス」を実施している。保護者の理解がない中での進学は、ハードルが非常に高い。通訳をつけて、主に保護者のために進学の制度などについて説明している。

このガイダンスでは進学以外の相談も受けており、生活相談・生活支援につなげる機会となっている。

さまざまな形でこういった場面があるといいと思う。

4. ウクライナ避難民への支援について

- ・避難民が来たら、公営団地が住居になるのか。

【事務局の回答】

親族を頼ってきている人もいるので、必ずしも公営団地とは限らない。東京都が避難民のために都営住宅を確保している。今後、都が市内の都営住宅を提供することは考えらえる。

5. その他

- ・大切なのは、笑顔と歓迎の態度だと感じている。多文化共生の取り組みとして大切なのは「支援」はもちろんだが、それ以上に「対等」という考え方。言葉の問題など課題もたくさんあるが、互いに認め合う対等な関係が、それらの解決に繋がっていくように思う。